

開催日時：2002年10月1日（火） 16:00～21:20

場 所：axビル アクスネット

参加者数：委員 12 名（うち 2 名は部会長の要請により参加）、河川管理者 12 名、
一般傍聴者 69 名

1 決定事項

第 15 回猪名川部会は 10 月 17 日（木）10:00～13:00 に開催する。阪神水道事業団から利水（水需要の予測等）について情報提供をお願いする。

2 審議の概要

委員会、部会および委員会WGの状況報告

資料 1-1「委員会ワーキンググループ（WG）について」、資料 1-2「委員会および各部会、WGの状況（中間とりまとめ以降）」資料 1-3「委員会WG結果概要」、資料 1-4「水需要管理WGのとりまとめ骨子」をもとに、委員会および他部会、各WGの活動状況、スケジュール等について報告が行われた。

最終提言に関する意見交換

庶務より資料 2-1「最終提言のとりまとめ方針案（9/12 第 14 回委員会資料 2-1）」をもとに、最終提言に向けたスケジュールについて説明があった。

最終提言の主要論点に関する情報共有および意見交換

・河川管理者より資料 3-1「猪名川治水の基本的考え方」を用いて、S28.9 洪水をモデルに、現況河道において [a. 堤防天端まで強化の有無 b. 無堤地区の築堤の有無 c. 狭窄部開削の有無] の条件を組み合わせた被害状況シミュレーション結果について、情報が提供され、意見交換が行われた。

・河川管理者より資料 3-2-1「猪名川流域の環境の現状」を用いて、猪名川・余野川ダムの環境の現状について情報提供が行われた。

・本多委員よりOHPを用いて、余野川ダム建設予定地域のシカを中心とした動物の棲息調査について情報提供が行われた。回復しつつある生態系の連続性がダム建設によって無に帰してしまう、選択肢の 1 つとしてダムも考え得るという意見もあるが、ダムには頼るべきではないとの報告がなされた。

主な意見

- ・ハード面の整備だけではなく、ソフト面の整備で環境に配慮した計画が実現できるのではないか。
- ・事務方の河川管理者から現場で工事をする人たちまで、生態系への細かな配慮をもって河川整備に取り組んで欲しい。
- ・水源地開発は、世界の水不足、地球温暖化、異常気象も視野に入れて考えるべきだ。

一般傍聴者からの意見聴取

一般傍聴者 4 名から「次回の部会で、関西のダムと水道を考える会からの説明をさせてほしい。それが無理なら、委員に説明資料の事前送付をお願いしたい」「余野川ダム計画の基本高水があまりにも高すぎる。算出し直す必要がある」「猪名川の治水に対する余野川ダムの寄与率は非常に低い。計画を中止すべき」といった発言があった。

このお知らせは委員の皆様にご会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させて頂くものです。審議の主な内容については「結果概要」、詳細については「議事録」を参照下さい。